

# やさしい心、 伝わる。ふれあう。

## 福祉活動の拠点 総合福祉センター

本村の高齢化は全国平均を5～6年先行する形で進行しており、65歳以上の人口の占める割合は昭和45年から平成7年までに407人から879人と2倍以上に増加しています。

今後、高齢化がますます進む21世紀に向けて、誰もが健康で生きがいを持ち安心して生涯を過ごすことのできる長寿・福祉社会の基盤づくりが急務となっています。

本村では、デイサービスなどの福祉活



動の拠点として温泉娯楽室を備えた総合福祉センターの活用を推進するとともに、在宅介護支援センター（平成11年度新設予定）を整備し、福祉サービスの整備充実を図ります。

また、ヘルパー、保健婦、福祉職員などの人的確保やサービスの拡充を図っていきます。

## あらゆる福祉サービスを展開

高齢者または障害者が、いきいきとして、できるだけ住み慣れた地域や家庭で生活していけるようホームヘルプサービス事業を実施し、一人暮らしや寝たきり状態にあるお年寄りや身体障害者の家庭にヘルパーが訪問して、家事や介護などのお手伝いをします。

また、デイサービス事業では、リフトバスなどで送迎し、日帰りで入浴・食事や日常動作訓練を行っています。また、家族の介護のみでは入浴が困難な家庭



に移動入浴車を派遣したり、一人暮らしのお年寄りや老夫婦世帯に栄養指導を目的として給食を配食するサービスも行っています。

## 健康づくりと 村民1スポーツ

純農村であった本村にも、都市化の波が押し寄せ、経済的、時間的なゆとりが増加し、村民の健康増進やスポーツに対する関心が年々高まっています。

村では各種検診の受診率の向上を図り、生活習慣病の早期発見、治療に努めるとともに定期受診への理解を広く深めています。また、検診の事後相談訪問指導等により、本人と医療機関、そして村とのネットワークが強化されています。

村民が心身ともに健康で明るい生活が送れるように、村民の自発的な精神衛生、食生活改善、体力増進のため、「ファミリーハイキング」「料理教室」「スポーツまつり」「健康福祉まつり」などの各種事業やイベントを実施し、健康運動の啓発と推進を図っています。

